

高野町長賞



税の大切さ

学校法人高野山学園高野山高等学校

三年 江川 大翔

私たちの身の回りには、あたりまえのように存在しているけれど、意識する機会の少ないものがある。それが「税金」だ。

ニュースや授業で「税金」という言葉を聞いたことはあっても実際に自分の生活にどれほど関わっているのか、深く考えたことはなかった。しかし、ある日祖母が病院で治療を受けている姿を見て、私は税の大切さを実感することになった。

祖母は高齢で、頻繁に通院が必要だ。診察代や薬代は一部の負担で済んでいて、「ありがたいね」と笑う祖母の言葉が印象に残っている。

なぜこのように医療を安く受けられるのかを調べてみると、その背景には税金があることを知った。医療制度を支える国の予算の多くは、私たち国民が納めた税金から成り立っている。税がなければ、祖母が気軽に病院へ行ける環境もなかつたかもしれない。そう思うと、税金が人々の健康や命を守る大きな役割を果たしていることに気づいた。

また私たち高校生が通う学校にも、税金が使われている。教科書の一部は無償で配布され、校舎の維持や冷暖房設備、給食費の一部補助などにも税金が使われている。普段何気なく受けていることを改めて感じた。さらに道路や図書館公園などの公共施設も、税金によって整備されている。つまり、税は私たちの日常生活のあらゆる場面に関わっておりなくてはならない存在なのだ。

しかし一方で、税金は「取られるもの」としてネガティブなイメージを持たれることもある。確かに、将来働くようになれば、自分の給料から税金が引かされることになる。けれどそれは誰かの医療や教育、安心できる社会のために使われていると考えると、単なる負担ではなく、「社会を支えるための責任」だと思えるようになつた。

今はまだ税金を納める立場ではないけれど、これから社会に出る一員として、税の役割や使い道にもっと関心を持ち、自分がどのように社会に貢献できるかを考えていきたい。